

平成 29 年度 業務指標 (PI) による自己分析結果 要旨

安全で良質な水

- 適切な浄水処理により、水質管理に関する各指標は良好な数値を示しており、水質基準値に対する安全性は確保されています。引き続き、安全で良質な水の供給に努めます。
- 一方で、近年は突発的な降雨などにより異臭味物質の急激な濃度上昇が多発するなど、粉末活性炭注入による対応の機会が増加しています。今後も、水質の変化を注視し、最適な浄水処理を実施します。
- 安全・安心な水道水を県民の皆様継続して供給するため、水質異常の早期発見ができるよう、日頃からの河川水質の監視を行い、水質管理の強化に努めていきます。

安定した水の供給

- 県営水道は、給水開始から 50 年が経過し、今後、水道施設の法定耐用年数超過率の増加が見込まれます。そのため、適切に点検や修繕を行うことで施設の長寿命化を図るとともに、計画的に更新を実施し、安定供給を確保します。
- 水道施設の耐震化を計画的に進めており、各耐震化率の数値は上昇しています。今後も、早期かつ着実に水道施設の耐震化を実施し、強靱な水道の構築に努めます。
- 平成 29 年度に、自家用発電設備の整備が完了し、停電時配水量確保率は大幅に増加しました。このことにより、災害等による大規模停電が発生した場合でも、受水団体が必要とする水量を送水することができます。

健全な事業経営

- 経常収支比率などの指標値は適正な水準が確保されており、経営の健全性や収益性は良好な状況にあります。
- 近年は水需要が減少傾向にあり、今後の給水収益の増加が見込めない一方で、老朽化施設更新や耐震化等に係る費用の増加が見込まれます。今後も、適切にアセットマネジメントを実践し、健全経営に努めます。
- 水道技術に関する資格取得度は年々低下しており、熟練技術者の退職等による技術力の低下が懸念されています。そのため、各種研修等を通じて、水道職員能力の向上を図り、技術の継承に努めています。また、事業運営ノウハウや専門技術等を必要とする諸外国への支援を積極的に行っています。